



# 東九州支部報

第93号

公益社団法人日本山岳会東九州支部  
2021年4月25日(日)発行



令和3年度定期総会 (別府市公会堂大ホールにて) 2021.4.18 撮影

## も く じ

1. 支部活動		雪の久住 御池の旅	16
令和3年度 定期総会開催	2	尻付山・ハジカミ山・御許山	17
支部長就任あいさつ	3	経読岳	18
十文字山(1月月例山行)	3	木ノ子岳	19
中ノ原山(2月月例山行)	4	牛頸山・天拝山(てるてる会)	21
亀石山・吉武山(3月月例山行)	5	万年山(こぎこぎ倶楽部)	22
研修登山 伯耆大山弥山尾根(西稜)	6	妙見山～谷山～石山(こぎこぎ倶楽部)	23
リーダー研修(霊山) 登攀技術+αを学ぶ	8	華岳・猪群山	24
2. 個人投稿	9	マンサクの咲く佐渡窪へ(こぎこぎ倶楽部)	25
ペンリレー(第40回)	9	俵山(熊本県)	26
より安全な登山のために(No.40)	10	3. 支部からの報告(支部会議報告)	27
三角点と山城探検シリーズ(第28号)	11		
私の無名山ガイドブック(No.80)	12	4. お知らせコーナー	27
カルト山鞍部からの平家山	13	ルーム利用状況・月例山行予定	27
宝満山登山	14	新人支部会員紹介	27
三俣山ダイレクトルンゼ	15	後記	28

## 令和3年度 定期総会を開催

昨年、年明けに発生した新型コロナウイルス感染症は、令和2年度の定期総会をやむなく中止（書面議決）とした。今なお続く状況であるが、今回は会員の感染対策に十分配慮し、受付では会員に徹底した予防対策を実施、マスク着用、手の消毒、検温、問診等を行い出席者名簿にチェックし入場してもらった。密にならないように席は間隔開けて着席するよう指示を行った。

令和3年度（2021年）の東九州支部定期総会が、4月18日（日）、別府市の「別府市公会堂大ホール」で会員82名のうち出席者35名、委任状30名、合計65名の出席（ほかに準会員3名・会友14名）で開かれた。開会あいさつ（安東副支部長）のあと、議長に丹生浩司会員を選出し議事が進められた。

最初に加藤支部長が、昨年の総会はコロナウイルスの関係で中止となりましたが、「60周年記念事業は皆さんの協力のもとに新大分百山（三訂版）、60周年記念誌をそれぞれ完成させることが出来、安どしてますと述べ、コロナ過で開かれた今回の定期総会は将来歴史に残るものとなるでしょう。」と挨拶した。

この後、議事に入り、飯田事務局長から令和2年度事業報告、木本会計から令和2年度一般会計決算報告及び、60周年記念事業の特別会計報告がなされ、続いて大平監事から会計監査報告があった。これらについてはすべて全員の拍手で承認された。

続いて議題で、はじめに飯田事務局長が令和3年度の事業計画（案）の提案説明があった。この中では特に、日本山岳会創立120周年に向け、その記念事業の一環として全国「古道調査」を実施する。東九州支部より肥後街道・豊後街道、日向街道・六郷満山峯入りの道の三つを推薦中で、本部において調査対象古道（120選）が選定されるが、その決定を受けて支部で取り組むことになる。また、「山の日」のイベントが、2020年に大分県で開催予定であったがコロナ過で一年延期となり、本年開催予定であること、この大会と連携した登山大会等を、大分県山の日実行委員会（東九州支部、大分県山岳連盟、大分勤労者山岳連

盟・全九州アルパインガイドクラブ）で協議して実施することなどが提案された。

次に木本会計より令和3年度の会計予算（案）が提案され、これら事業計画（案）、予算（案）は、原案どおり拍手にて承認された。

第5号議案「規約・規程の改定及び制定」について、規程第25条の改正と、規程制定、表彰規程（案）と同好会規程（案）が提案され、いずれも承認された。

総会終了後のアトラクションは、本部ライブラリーより借用したビデオ映像「日本山岳会1980年エベレスト北壁」約30分と、安東新支部長の「登山報告」講話を行なった。

最後に、甲斐副支部長の閉会あいさつで総会を閉じた。

## 加藤支部長勇退・後任に安東 新支部長を選出

第6号議案の役員改選では議長より「この度、加藤支部長、甲斐副支部長、飯田事務局長、木本会計、田所幹事、久保幹事、浅野幹事、大平監事が退任されるとのことで、後任に安東桂三副支部長以下、お手元に配布のような新役員（案）が議長に報告されていますので、この場で承認したいと思っておりますがいかがでしょうか」と提案があり、満場の拍手で承認された。この後、加藤支部長以下退任する役員の挨拶があり、つづいて、新役員に選ばれた安東新支部長以下一人一人が自己紹介と抱負を述べた。最後に安東新支部長が挨拶、「少子高齢化、人口減少で当該支部ももろにその影響を受け、支部構成員の平均年齢も70歳前後で推力を失いかけている。そうゆう意味において、支部の活性化に対して私は背水の陣で臨みたい。」と述べた。（文責 阿南）

新委員は次のとおり、

支部長	安東桂三	
副支部長	下川智子	事業部
副支部長	鹿島正隆	山行部、遭難対策部
事務局長	阿南寿範	総務部、広報部担当
会計	平原健史	財務部担当
委員	中野稔	総務部担当
委員	宮原照昭	総務部担当

委員	井上高明	事業部担当
委員	佐藤裕之	事業部担当
委員	櫻井依里	新大分百山専任、山行部担当
委員	大渡崇夫	山行部担当
委員	丹生浩司	山行部担当
委員	河野達也	財務部担当
委員	矢上将大	遭難対策部担当
委員	笠井美世	広報部担当
監事	木本義雄	
監事	浅野総一	
顧問	加藤英彦	
顧問	飯田勝之	
顧問	甲斐良治	
顧問	興田勝幸	

彦支部長より、バトンを受け継ぐことになった。支部の構成メンバーをみると、若年が少なく、年輩が多い人口構成となっている。日本の縮図以上に、支部の人口構成は、危機的と思う。この組織を続けるためには、若いメンバーを取り組み、かつ、年輩もそれなりの山行をし続けることが、必要と思う。四代目加藤支部長は、就任時の10年前「自分はどのようにして日本山岳会に入会したのか」を会員に問うた。その答えは、原点にかえて、山に登ることを考えよ、支部(組織)で登ることを考えよが、正解と思う。私も、同様に、原点にかえることを目指したい。各会員の登山力のレベルアップ、これを第一目標に掲げ、このレベルアップこそが、新しい人材が入ってくることにつながると考える。この個人のレベルアップがなければ、支部の活性化・持続性はない。月例山行、研修山行など多くの事業は、引き続いて行いたい。が、より目的を明確化し、より成果の上がるような事業へと考えたい。それが、東九州支部の明日を明るくものへと導くと思う。会員の皆様のご協力をお願いします。

安東桂三

## 安東支部長就任のあいさつ

昨年、1960年に創立された東九州支部が60年経ち、人であれば「還暦」を迎えるという記念の年でした。また昨年より、新型コロナウイルスが猛威を振るい、世界中で多くの人々が感染し、多くの人々が亡くなりました。2021年度になっても、未だ猛威をふるい続け、我々人類に試練を与えている。不要不急の外出はするな、仕事はリモートで、会議もリモートでせよ、マスクを必ず使用せよ、手指消毒をせよ、外出から帰ったらうがいと手を洗せよ、など感染対策をやって、日々の感染者は増えている。昨年開催予定だった東京オリンピック・パラリンピックは、一年延期されたが、この4月になっても、本当に開催されるか、わからない状況。ワクチンが開発され、医療従事者、高齢の方、基礎疾患を持っている方から接種するとなったが、未だにほんの一握りの国民しか接種されていない。ワクチンを接種しても、新型コロナウイルスの変異種が発生し、ほんとに変異種に効くか否かは疑問の状態。日本全体を見ると、少子高齢化・人口減少が、社会の歪みを造り、格差のある社会、若者の組織離れなど、多くの問題が発生している。このような世情のなかで、四代目加藤英



## 十文字山 (900.7m)

### 1月月例山行

報告 佐藤裕之 (16315)

1月17日(日)

月例山行の実施につき、リーダーは少なからず悩んでいる。直前に、熊本県独自の緊急事態宣言が発令されたためである。緊急事態の下、熊本県内をうろうろして良いものか?そこで大分県内のみで行動可能な計画を検討し、中津江村中津江ホール集合とし、参加者にいったん周知した。ところが、直前に同ホール駐車場が開放されていないことがわかり、最終的に「道の駅小国」集合とした。集合時間は早朝であり、道の駅に車を置かない計画のため、大きな問題にはならない、と判断したわけである。

道の駅に集合後、片仁田集落に移動。駐車場はないが、路肩に広い空き地があるので、そこに4台、車を置いておく。次いで、尾ノ岳駐車場に移動。点検後、いざ出発、としたところで、リーダーが道の駅にリュックを置き忘れ

た、と騒ぎ出した。道の駅で資料を配ろうとしてそのことに気をとられ、忘れたようだ。リュックがなくては話にならないので、取りに戻ることにした。この間、他の参加者は尾ノ岳に登って時間をつぶしたとのことで、あまり退屈しないで済んだようである。大いに反省しなければならぬ出来事である。

9時20分、気を取り直して、いざ出発。まず、県道から林道に入り、電波塔から藪に突っ込むとわずかに踏み跡があり、県境稜線はすぐである。少しは人が歩いているのだろうか、切れ切れの踏み跡をたどり、稜線沿いに歩く。

あらかじめ、迷いそうなところを地図に「？」マークを付けておいたが、予定通りにここでちゃんと迷うので面白い(?)。幸い、迷いかけると、誰かが声をかけてくれるので、大きく迷うこともなく、進んでいく。50分ほど歩いたところで、牧野に出ると、このコース唯一の、しかし絶景の大景観が広がる。九重連峰はまことに雄大で、見慣れない角度からの大観峰も良い。この眺めだけで、来た甲斐がある。

この牧野は、眺めは最高だが、油断すると牛の糞を踏んでしまうので、足元注意で景色に見とれることは注意したい。牧野を離れ、また藪に突っ込むが、厳しい藪は10分くらいで、意外に浅い藪が続く。

ルートはほとんどなく、樹林帯の中で展望もないが、よくよく目をこらすと樹間にかすかに主稜線が見える。分かりにくいルートだが、注意深く歩けば、完全に迷ってしまうことはないだろう。

雪はほとんど溶けていたが、今日はかなりの冷え込みで稜線が寒くて、ゆっくり休むところがない。歩き続けて横道という集落に出ると、わずかに日なたがあり、遅めの食事をとり、ようやくほっこりする。

横道からは、上野田川に沿った林道歩きとなり、気持ちが良い。横道から北西に1.2km歩いた地点から県境は北上するが、この沢はかなり険阻なうえに、藪でふさがれているので、そのまま西進し、市道を迂回して、14時30分片仁田に戻った。

十文字というのは、どこにでもありそうな地名だが、ネットで調べた限りでは、別府の十文字原と甲武信ヶ岳北にある十文字峠・十文字小

屋しか出てこない。最寄りの地図にも十文字の地名の記載はない。「十文字」とは地名ではなく、三角点の名称と理解すればよいのだろうか? (三等三角点「十文字」 900.7m 北緯33度2分35秒 東経131度0分43秒) 上津江方面に詳しい人がいれば教えていただきたい。なお、安部会員には、早朝大分駅にて、研修資料(霊山研修山行)を配布いただくなど、いろいろと配慮していただいた。ここでお礼申し上げます。



- 反省点
- 1 忘れ物に注意
  - 2 迷う前に、地形・地図・GPSで確認
  - 3 県境稜線途中で回避は残念だが、急がば回れ(?)
  - 4 感染対策 どうあるべきか?

<参加者>

佐藤(裕)リーダー 中野(稔)、丹生、宮原、久知良、大渡、櫻井、鹿島、山村、中野(梨)、平原(健)、清水(道)、清水(久)、飛高、榎園、大星

**中ノ原山 (721.4m)**

**2月月例山行**

**報告 会友 225 大星三千代**

2月14日土曜日、朝はあいにくの雨。大分西部は夕方まで天気の崩れは小さい予報。

前回、尾ノ岳登山口から片仁田集落への十文字をピークとした山行へ、一年ぶりに参加させて頂

いた。今回は上津江吉ノ本集落から片仁田集落への県境をつなぐ縦走だ。

午前6時半しとしと雨の中大分駅に集合。途中瀬の本、小国道の駅で合流し、20名の参加。登山口にて、阿南リーダーより本日のコース説明を受ける。約3.6キロ、コースタイム3時間30分の道のりだ。

9時25分起点となる林道を出発。ほどなくして、最初の三角点676.6セリハラの横を通る。飯田さんより、熊本県側の松の木の下に三角点ありと教えて頂く。周辺はクヌギの木が伐採されている。しばらく竹藪をかき分けながら進む。足元は、クヌギや松の枯れ落ち葉のフカフカした道で、歩きやすい。

春目牧場の鉄条網に沿って県境となる土塁の道が築かれている。「土塁」歴史に疎い私は初めて知る用語だ。広辞苑によると「土を盛り上げて築いた小さな砦」とある。

境界線を人の手によって延々と土を盛り上げていったのだろうか。

中ノ原山へは、この土塁の道を辿りながら登っていく。

「イチヤクソウ」の葉、「サンキライ」の実、前後を歩く方たちが見つけては教えてくださる。冬枯れの色のない道の中、つやつやした常緑色のイチヤクソウの葉に、初夏にはかわいい白い花をつけるのだろうか、今年も探しに行こうなど思いを巡らせながら歩く。

背丈ほどの竹藪の中の「藪ラッセル」。先頭を行くリーダーに感謝。

680メートル位の鞍部で休憩を取った後、緩やかな登りを快適に歩いて、11時15分中ノ原山の山頂に着く。紅白の測量用ポールが出迎えてくれる。ピークは、721.4メートル、三等三角点だ。周囲は木々に囲まれて展望はない。山頂で記念写真を撮り、下山開始。

谷沿いのやや急な斜面を土塁の境界線に沿って、木々を頼りに下りていく。

11時40分林道に下りついた。見上げると空は、すっかり青空だ。

広場に出て昼食。おなかを満たしたところで、飯田さんより、レインや防寒具のしまい方のレクチャーを受ける。

13時5分 県道134号(南小国上津江線)のクロス点に下り、解散となる。

「県境を歩く」私にとっては、初めての山の楽しみ方。今回は中ノ原山に続く長い長い土塁の道、次はどんな県境の道が待っているのだろうかとわくわくしながら、山行を終えた。



中ノ原山山頂 三等三角点

<参加者>

阿南リーダー 飯田(勝)、鹿島、中野(稔)、牧野、宮原、丹生、大渡、久知良、山村、石川、清水(道)、清水(久)、河津、大星、平原(瑞)、榎園、中野(梨)、飛高、平原(健)

## 亀石山(942.5m)・吉武山(926.3m)

### 3月月例山行

報告 若月美智子(15735)

3月14日月例山行の朝は早い。起点の亀石峠に8時集合する。リーダーの阿南さんより本日の工程の説明、ミーティングをして縦走終点の麻生釣に数台の車を回した後、総勢23名が出発。

県境を歩くがテーマで熊本と大分の県境にある亀石山をまずは目指す。790m地点の峠は、見晴らしの良い緩やかな草原のハイキングコースで、あちらこちらにフキノトウが顔を出していて、女性軍はテンションアップして我先に見つけては袋に入れる。私も遅ればせながら頑張って摘み取る。これで夕飯にフキ味噌と天ぷらのおかずが決まる。



亀石山山頂

山頂で一休みしてから次の吉武山へ向かう。牧場の脇の小道を一列に並びアップダウンしながら長いこと歩く。

680mの林道との接点場所で地図を確認し、昼食タイムとする。それからまた県境に沿って道を探しながら行く。その先の道なき道の山の急斜面を下りる時は、身体のバランスを注意深く取りながら行かないと、トンデモナイ事になってしまう。全員が谷に降りるまでには少々時間がかかったが、皆無事で何より。吉武山に取り着くその辺りには、クロモジ、シロモジの小さな黄色い花がたくさん咲いていて可愛い。吉武山山頂四等三角点あり。マイナーな山なので私も含めほとんどの人が初めてだった。笑顔と満足顔で集合写真を撮り終え下山する。



吉武山山頂

また広い牧場が現れそこを横切り、畑道を進む。終点九重町麻生釣温泉傍国道387号線の脇でドライバー以外の方は、車が戻って来るのを待った。私はその間ひとりすぐ上の小高い丘の温泉の

圧倒的な湯煙を呆然と見て過ごした。地球のパワーを感じた。閉会式は阿南さんの挨拶で解散する。それぞれの家路に着く。

私達別府組は帰路に、由布岳前のやまなみハイウェイで丁度野焼きに出くわした。壮絶かつ幻想的な光景にしばし見とれた。別府に長く住んでいる清水さんは、扇山は、何度も見たけど由布岳は初めてだそうだ。くじゅうの案内のプロモーションビデオの中の一画面で“春は黒”の文字を思い出した。これから迎える春の山の楽しみの一つは山菜の収穫である。ワラビ、タラの芽、ウド、等々今年も張り切って見つけに行かなくちゃ。

<参加者>

阿南リーダー 中野(稔)、牧野、櫻井、宮原、若月、丹生、大渡、久知良、山村、石川、清水(道)、清水(久)、賀来、古谷(耕)、河津、大星、平原(瑞)、榎園、中野(梨)、古谷(あ)、飛高、平原(健)

## 研修登山 (冬期 伯耆大山)

### 弥山尾根 (西稜)

報告 矢上将大 (準会員 A-0240)

昨年の3月に伯耆大山七合尾根研修を終えてから、「次は弥山尾根に挑戦したいね!」と笠井会員と話し、練習を重ねてきた。

そして今回も昨年と同じ安東会員、笠井会員、私の3名での伯耆大山。2月19日(金)16時に大分を出発し、夜は大山高原スマートICにてテント泊。翌20日(土)は南高北低の気圧配置のため西寄りの風が強く上部は霧に包まれていたが、計画を変更し翌日ではなく、その日のうちに登攀することにした。

大山駐車場を8時に出発し、元谷避難小屋で小休憩を取った後、雪崩の危険を避けるため、木が混んだ斜面を進む。弥山尾根へのトレースはなく、深い雪をラッセルしながら取り付きへと向かう。ようやく尾根に出て少し安定した所で50mロープを3人でセットし10時30分登攀を開始。

最初は私がリードを担当。ルートを見定めながら進もうとするが、ふわふわの雪が付いた急斜面の登攀はピッケルも効かず、足場はすぐに崩れていくため、1m進むのにも体力と時間を奪われ

る。灌木にスリングを巻き支点を構築しながら登っていくが、雪壁の前でストップしてしまう。

「これ、どうすれば行けるの?」と焦りつつ、ピッケルで雪壁を壊していくと手掛かりを発見。核心部をようやく乗り越え、今度はリッジ状の雪稜に出る。なおも続く、地獄のようなラッセルで、とうとう両足が痙攣。その後は安東会員にリード交代。(ここで気持ちが折れた事が本当に悔やまれる。)途中で、後続パーティーに先を譲るも、順調にピッチを重ねていく。

標高 1490m 付近、昨年広島支部のメンバーが下山ルートを見誤りトラバース中に滑落したポイントを確認する。かなりの高度感、ここで落ちたら下まで止まらない。

その後も強風が吹き荒れる中、3人でロープに繋がり、バランスを崩さないように注意深く登っていく。



弥山尾根西稜の取り付け



弥山沢の左岸を登る

山頂へと続く、最後のなだらかな稜線を進み、ようやく弥山に 15 時登頂。空は晴れ渡り、神々しいまでの美しい景色が目の前に広がる。苦労した分、喜びも大きく、より一層山の魅力の虜になる。「よし、来年はどこに挑戦しようかな!」

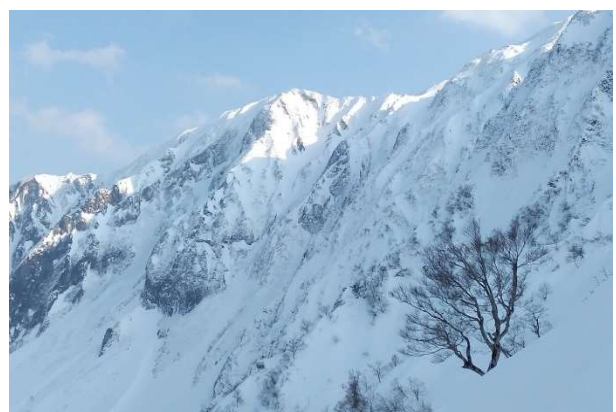
さて、今回の研修参加にあたり、広島支部報第 47 号の報告書を精読し、自分なりに弥山尾根をイメージして予習を行ってきた。事故へ至るまでの経緯、その原因や対策が詳細に記載されており、大変勉強になった。経験や学習を重ね、正しい状況判断ができるリーダーを目指していきたい。

<参加者>

安東、笠井、矢上



大山山頂にて



6合目付近より見た北壁

## リーダー研修 (霊山)

登攀技術 + α を学ぶ

報告 生野 栄城 (会友78)

1月24日(日)

10:00 七瀬川公園駐車場に集合。

出発前後に以下の項目を確認・学習

① リーダーの資質：『総合登山ハンドブック』2,000円UIAAをもとに、「・常に危険に意識を向けていること、・チームスピリットを持ち情熱と寛大さを持ち合わせていること、環境全に意識を向けており、自然についての知識があり説明ができ…等」

② 読図にて現在地確認：25,000分の1地図では、一ミリが25mであること

③ 地図が必ずしも正しくないこと：明治井路の位置が地図と異なること

■出発後、明治井路取水口から古い道を介し秋岡集落へ。墓地を経て登山口から登山道へ。途中、石像（マサカリを持っている）の確認に往復。等高線に沿った道に戻る。

途中、登山道が危ういところでは、ロープを使って安全を確保しながらトラバースした。安部先生ここから一人帰路の途へ。霊山界隈の歴史にまつわる話ありがとうございました。

■さらに山腹に沿った道をたどり沢にでる。石像（今度は火の神）があり、小休止（昼食）。講師

の安東さんによると、かつてこの辺りまで火の手のおった火事があり、そのようなことの無いよう石像が備えられているとのこと。

さてここからは沢登り。沢沿いの道を進みながら、小さい滝3m、4mと越え、核心部の滝5mへ。ロープで確保しながらの登攀や尾根を巻いたり、滝を乗り越える練習となった。さらに沢を詰めて歩く。古い道に上がりそのまま、登山道へ。地図にて現在地確認する。

■飛来山を経て下山路へ。途中の登山道を右に降りる。鐘撞堂を経てずっと整備されていない古い道を探り探り下る。古いお墓や、門の跡や、八十八箇所巡りを記した石造の並ぶ道なき道を下る。車道を通り切るようにして、さらに尾根道を下り、トンネル前の車道へ。これは本宮山への道。こんなところへ出るのかと少々ビックリ！

車道を下り、途中から左へ。山道を下り川を渡り、蕨野集落へ。西に向かう集落内の道をたどり、秋岡集落へ。途中、振り返り往路の先にある飛来山を眺めた。



ロープ使用しトラバース

16:10 七瀬川公園駐車場

★「現在地を確認しながら、ここは行けるのではと予測しながらの登山」は、面白い。もちろん面白いばかりでなく、このような山行を重ねれば、「危険に意識を向ける」リーダーとしての能力が向上するだろう。新たな経験ができた研修山行となった。

<参加者>

安東、笠井、矢上、佐藤(裕)、鹿島、安部、生野



個人投稿

ペンリレー・第40回

登山を始めて10年

宮原照昭 (15683)



私は、今、充実の日々で暮らしています。仕事は、月曜日から金曜日の昼まで。週末は登山に明け暮れている。その為に平日の昼からは、週末の登山計画を作成しながら登っている。

そして、去年からは、仲良いメンバー11名と九州百名山か大分百山を皆で知恵を出し合いながら登る日々である。

高校を卒業し、先輩達から酒と焼酎を教えてもらい給料日になると、お決まりの飲み会の日々を過ごしていたら、40歳頃から心臓の病気になり薬を頼りして日々過ごしてきた。

しかし定年後のことを考えて生き方を模索していたら61歳に阪急交通社の富士山のツアー「富士山お鉢めぐり」を申し込む。大分から2泊3日で頂上まで苦しみながら登り頂上からの景色を見て、その喜びを感じて大分では一人で、久住山・由布岳など登るが何か物足りないと思っていたら、大分合同新聞社で見た東九州支部の第1回登山教室に参加した。

そして先輩達から、大分県の山・九州・中央アルプス・ネパールなど連れて行ってもらい少しずつ山の良さなど学んだ。そして日本山岳会東九州支部会員となりそして経験を積んでいくと、去年から仲の良いグループをつくり大分百山・九州百名山・日本百名山など計画を立て登ってきた。

しかし去年からコロナ禍の中をどうやって登山に向き合っていくかを模索しながら続けてきた1年だった。しかし今年からは、今まで以上に躍進したい。

そして先輩方の80歳過ぎても山を積極的に登っている姿を見て、私もその姿を見ながら登山を続けて行きたい。

最後に、今私が1番好きな言葉がある【天心に夢を有つ】(心の中に夢を持ち続ける)

次回のペンリレーは佐藤裕之会員(16315)にお願いしました。お楽しみに!

より安全な登山のために No. 40

## 『たやすく起こる山火事』

安東桂三(9193)

昨年(2020年)4月に九重連山の立中山で山火事が起こり、1ヘクタールが焼け、群生するミヤマキリシマの約1600本が焼けた。福岡県の男性と熊本県の女性が、調理するために使ったガスバーナーの火がミヤマキリシマなどに燃え移ったと言う。国立公園内では、他地域からミヤマキリシマを持ってきて、植生することは許されない。自然に元に戻るよう再生を促すことしか出来ず、元にもどるまで、10~15年かかると言う。国立公園内では、自然公園法(旧国立公園法)を順守し、登山活動を行わねばならない。その自然公園法によると、特別保護地域では、特別地域の内、特に重要な地区では、以下の行為には許可が必要となるとあり、「たき火」はその許可の一つとなっている。どこがその特別地域か、登山者は確認せねばならないが、一般的に簡単に「キャンプは指定地で行うように(キャンプでのみ火は使うとの認識)」との注意喚起が、登山者にされている。

立中山は、その特別保護地域内であり、たき火は出来ない。この自然公園法は、1957年(昭和32年)に制定されたので、当時は、携帯用のガスバーナーの使用は想定されていないと思う。ただ、最近の登山用品のコンパクト化と、登山ブームにより、ガスバーナーの持参による昼食調理をする登山者は、多い。

昔は、公園の樹木の枯葉を集めて、たき火を行ったりすることは、日常茶飯事であり、火に対する認識は、今よりあったと思う。が、簡単なガスバーナーの普及により、認識があまいまま、火を扱うことが多く、「火の不始末=失火」となってしまう。

今年(2021年)2月下旬には、栃木県足利市で起こった山火事は、鎮火まで23日間かかった。足利市は「たばこの不始末と推定される」と発表した。被害額は3200万円と言われる。この被害面積は、106ヘクタール、すべて民有地だった。これを法的に考えると、一般的に延焼させた人物が民法上の損害賠償責任を負うことになる。ただ

失火については、失火責任法という特別な法律があり、重大な過失がある場合にのみ責任が問われる。ここで、重大な過失とは、わずかな注意さえあれば容易に防ぐことが出来ることを見過ごしたことを言う。日本は山国であり、国土の7割が森林。毎年、1200件ほどの山火事が起こり、700ヘクタールが燃えている。その被害は3億6000万円にのぼっている。

この足利市の山火事は、被害額3200万円と言われているが、23日間消火活動に従事した消防関係者、自衛隊関係者、ほかの費用は算定されてなく、表には出てこない。市民の登山道も市民は使えない。これらを考えると、総被害額は数億になるかもしれない。

立中山も15年経てば、元に戻るかもしれないが、大きな被害。たやすく調理が、思いもかけない事態。足利市も、同じく思いもかけない。足利市の山林所有者も、思いもかけない。

私は、この4月3日に、北九州の風師山にハイキングに行った。小森江貯水池から登ったが、登山口の小森江子供のもり公園には、思いもかけない厳しい看板が、表示されていた。これも、登山者と思われる人のたやすい行動が、思いもかけない激しい看板へとなってしまった。写真紹介します。



木製ベンチ



看板：被害発生



看板;火気厳禁

三角点と山城探検シリーズ (第28号)

～耳納連山の旅～

安部可人(会友11)

高速道路杷木から「耳納山スカイライン」が南に見えて、長年気になっていた。誰でも一度は訪れたいとおもう。210号線は、歴史ある浮羽、筑後吉井、田主丸、草野は葡萄と富有柿と苗木の産地、終点久留米で渋滞します。筑後川が流れて一大穀倉地帯でした。陰阻な耳納連山には、50もの砦があり、九州戦乱の中心地。住民は難儀した。安全保障の見返りに、大友氏から人馬食糧を徴発された。高良神社周辺は、歴史が特に濃ゆい、秀吉が来たという「吉見嶽城」(写真)、戦国武将が入れ替わり陣した「毘沙門城」が特別よかった。

1. 登山コース まわりはすべて「山城」、御井駅～御手洗池～吉見岳147.6～高良大社の茶店コース、大社周辺が久留米市民の憩いの場であり、「毘沙門城・高良山」312.3(7分)下の公園まで歩きます。眺望点には、夏目漱石の句碑を見る。発心城697.5二等三角点から「発心公園」(草野氏の館跡)への漱石ルート14kmを降りたい。「松をもて 困いし谷の 桜かな」漱石は下山中、発心城から落ちる谷間に松と山桜を見た。明治39年春、熊本五高の教授夏目漱石は親友の菅虎雄を訪ねた時、ともに歩き「漱石の道」に10句残した。この経験が『草枕』となる。

2. 鷹取城 802.1 一等三角点 田主丸から登れば2時間を要した、いまは2分(写真)。眺望抜群の星野氏の山城は、全国で一番高所にある(本当は

古処山城が859.5mで日本一高い)。山頂まで溝数本見る、それを「畝状豎堀」という。

3. スカイラインの話 久留米市が、全長20kmの「スカイライン」を昭和30年代に造成した。今は両側に樹木が茂り、鬱陶しい。鷹取山でプチ切れて、合瀬耳納峠に出る。両側に下る道路は不通もあり、期待したほど快走路ではない。

4. 帰途の二次会 南北朝戦の史跡巡り、宮の陣駅から、負傷された懐良親王が養生した陣「宮の陣神社」、次は小郡駅から、小郡役場敷地内の「大原古戦場」址、正平14年(1359)夏、少弐頼尚・大友氏時連合軍と懐良親王・菊池武光軍の有名な「筑後川合戦」の場所、菊池武光騎馬銅像は昭和12年建立(私の誕生年)、鬼気迫る銅像を見る。B29の空襲あり、グラマン機の機銃弾が馬の腹に今も2～3発残っている。

(あんべ よしと)



吉見嶽城の入口



鷹取山山頂

**私の無名山ガイドブック (N080)**

**戸高(407.5m)・佐土原(507.2m)**

**飯田勝之 (10912)**

前回の臼杵川源流と分水嶺で対峙するのは番匠川支流の井崎川の源流部で、津久見市の僻地といわれる八戸高原の地域である。この最源流は碁盤ヶ岳であるが、この谷をなす両側の稜線の二つの峰を紹介しよう。

**戸高**

彦岳から碁盤ヶ岳に連なる稜線から井崎川の源流部へ派生する支稜線の先端部分にあり、谷間から見上げるとちょっと登ってみたいくなる気になる小ピークである。

国道10号の中の谷トンネルの佐伯側の手前から右に、井崎川に沿って入る市道を行くと、宇藤木で左に旧中ノ谷峠に至る道を分け、さらにどんどん入っていくと国道から、約5.7kmほどで、右上に廃屋があり、左に下る道がある。

ここがとりつき地点によい。これを下って、スギ林から谷を渡り向の斜面に取り付く。山腹の斜面を北東に斜めに登っていくとスギ林から天然林の灌木の中の登りとなる。やや急な斜面をなおも登るとウラジロは現れてきたらやがて稜線に着く。この稜線を右(北東)に登っていけばやがて左側がヒノキ林となり、ほどなく小さなピークに達する。中央に四等三角点がり、その北東2mには「戸高鉱業」の境界杭がある。

付近の山林はスギやヒノキの植林がほとんどで、山頂も南東の一角を除き、三方がヒノキ林となっているが、西の木立の向こうには碁盤ヶ岳が広い平らな山体を見せている。

参考タイム：市道→40分→稜線→10分→山頂

**佐土原**

碁盤ヶ岳(716.3m)から南に派生する稜線は、臼杵川と井崎川の両川の源流の分水嶺をなして中ノ谷峠へと連なっている。その稜線が高度を下げていき、500mを割る直前のピークがこの峰である。

この峰に至るには、近くにある送電線鉄塔にいたる送電線の巡視路をたどると、無名の山嶺にしては結構快適な登山道の登りを楽しむことができる。神野の臼杵川側からの巡視路もあるが、結構長くて急なので、ここでは比較的楽な井崎川からの道を紹介しよう。

前記の宇藤木への市道を国道から約4.5kmで、左側に佐伯と津久見の市境をなす谷が分かれるが、その30m手前に左に入る林道があり、「海崎線38号」の鉄塔入口標識がある。

この林道を入り途中の分岐を左にとればその数十m先に右に登る歩道があり、送電線の標識がある。ここを入り、枯れ沢沿いに登れば稜線に出て右に鉄塔(38号)を見て、左に稜線に登る。快適な稜線登りで15分で次の鉄塔(37号)の下を通り、さらに20分で次の鉄塔(36号)。さらに急な稜線道が続き、約15分で主稜線に着く。

そこを左に2.3分で鉄塔(35号)を見て、その2.3分先の木立の中が山頂だ。東西に少し長い山頂のやや西に寄った、ヒノキと自然林の植生境に三等三角点があり、碁盤ヶ岳と臼杵川源流の展望がよい。

参考タイム：市道→15分→38号鉄塔→20分→36号鉄塔→25分→三角点



**こぎこぎ倶楽部**  
**カルト山鞍部から平家山**  
**(1,022.9m)**  
**報告 宮本真理子 (会友131)**

道の駅ゆふいんにて待ち合わせた宮原車に便乗させてもらい、R210号を平家山入り口に8:00前着、他のメンバーと合流する。下山時を考慮して飯田さんの手配で車を分散させ、自衛隊演習道へと続く林道に降り立つ。今回は16名のメンバーで楽しい山行になりそうだ。其マイナーネット、スマホで取り出した山岳地図をもとに読図しながら飯田さんの説明を聞く。も、今回の山行ルートは皆の地図からはみだしており、次回からは其々に国土地理院の2万5000分の1の地図を持参するよう飯田さんより助言あり。

現在地は右に駅館川、左に筑後川の分水嶺上に位置している所だそうだ。山の地形に疎いものには「分水嶺」とは昔から不思議な領域、存在であり、言葉の響きにも憧れていた。

8:45甲斐さんを先導に次ぎに続く。遠く日出生台演習場や右にカルト山、兜山、福万山の山並みを望みながら「今回はあの鞍部の縦走もいいなあ!」と飯田さんの提案あり。やがて演習場の入り口手前より左に登り始める。藪漕ぎかなと思う頃には演習場境界の防火帯に沿った落葉広葉樹林の広い尾根道を散歩気分で上がり下がりする。と、紅葉が美しい広場のような台地に陸軍所轄地の石柱がある834mのピークに立つ。原生林ではないが炭焼きが途絶えた後の自然林が広がり、気持ちがいい。

9:40記念撮影後、右に風倒木と放置されたままの杉の植林帯を進む。その先の谷が深い為一旦右に見えるジャリ石の車道に下り、途中より左折し尾根に踏み込む。放置された杉の植林帯は皆、同じ方向に大きく傾き、全く手は入っていない。

10:30、900mの地点で小休止する。風倒木をまたぎ、傾いた木を避け、深い森の中に迷い込んだような気分になる。暫く風倒木の中を我慢して進むと広い広葉樹の尾根道に出た。最後の

急登を息も切れ切れに35分程登り詰める。と、眼前に広場が出現する。

11:13、1,022.9mの平家山山頂(三等三角点)に到着する。20年前に自衛隊のアンテナボックスが撤去された後はアブラチャンの林立する広場となり、カエデの紅葉がきれいである。陸軍所轄地の石柱と並行して「ナムアマダブツ」と記した祠があり、登頂を感謝してお参りをす。アブラチャンはクスの仲間で香り高いと飯田さんに教えてもらう。

早めの弁当を摂っていたら朝、顔を合わせた安部さんが平家山の正式ルートを少し外れながら登って来られた。皆揃った所でもう一度、和気あいあいの中で記念撮影する。下山は正式のルートを下る。途中の遠景に馴染みの八面山が顔を出す地点で小休止。飯田さんからは何年か前の日本山岳学会「分水嶺調査」で日出生台演習場の敷地内を調査した時の貴重な話を聞くことが出来た。調査時、安部さんも同行されていたそうでふたりの会話がはずむ。途中、安部さんは尺間神社に向け一人姿を消す。

12:15早めの下山となる。飯田さんの指導で登山口の勾配をロープ、カラビラを使用しての坂道懸垂下降の実地訓練をおこなう。スリングの結び方、カラビナを操作しながらの懸垂下降を一人ひとり繰り返す。こぎこぎ倶楽部員にはロープ等これらの器具を持参することを薦めたいと。

迎える車に出会うまで平家部落に沿って流れるカルト溪谷を下る。ちょうど紅葉真っ盛りで何度も立ち止まり・写真撮影をしながら紅葉を堪能する。学びもあり、笑いもありの楽しい山行となりました。一期一会のみなさまに感謝です。



平家山山頂

<参加者>

飯田(勝)、石神、宮原、神田、大渡、丹生、久知良、平原(健)、安部、宮本、清水(久)、賀来、雪野、飛高、諸田、甲斐(英)

## 個人山行

### 宝満山 (829.0m)

報告 櫻井依里 (15463)

令和2年最後の山行に福岡県太宰府市の北東にそびえる宝満山(829m)に登ることにした。

12月29日(火)メンバーはリーダー宮原・若月・今川・私こと櫻井の4名で今川さんと私は初めての山である。宝満山は日本山岳会東九州支部会員の多くの方が登られたことのある親しみやすい山だと思う。



竈門神社上の駐車場

この山は神が宿る山として、山伏の修験道の聖地として、英彦山、背振山と並び霊峰としてあがめられているし日本の山岳信仰を知る上で、文化財保護法に基づく史跡にしていされている。

大分を6時出発、8時50分登山開始→10時50分山頂→11時25分~20分昼食→13時45分下山の4時間55分の行程であった。

竈門神社上の駐車場から林道道終点登山口まで60分、そこから石段歩きの始まりで登山道は木陰が大半で夏は涼しいであろうと思った。石段は均一では無いものの良く整備されていた。やっと下界の見える所に水場があり、直ぐに行くと「百段ガンギ」に出る。ガンギとは船着場にある石段などのことを言う。誰もが100段あるのか数えて登る様だ。確かに100段あった。石段を登り終えさらに登ると中宮跡に出り、山頂とキャンプセンターへの分岐があり、私達は山頂コースを選択ひたすら石段を登るが、兎に角、人気の山だけあり登山者(老若男女)が多い、服装も散



宝満山山頂から博多湾を望む



宝満山山頂

歩姿から本格派まで様々であり、このファッションショーもまた楽しい。

そうこうしていると頂上に着き上宮の社殿がありその横に肇社と掘られた大岩がありしめ縄が巻かれ歴史を感じる。

頂上からの景色は博多港、能古島、玄界灘、英彦山と一望できる。

福岡の男性は優しいのか若月さんに懇切丁寧に説明をして頂いた。頂上から10分でキャンプセンターに着き、昼食である本日は若月さんが準備してくれた小分けしたカレーうどんである、各自持参したクッカーで頂く、寒いときには格別に美

美味しい。食事が終わったら一気に下山し、大分へと帰路につく。

何時もながら完璧な計画にてリーダーを務めていただいた宮原さんに感謝、若月さん今川さん楽しい山行ありがとうございました。

<参加者>

宮原照昭(リーダー)、今川三弘、若月美智子、櫻井依里

## 個人山行

### 三俣山ダイレクトルンゼ(個人山行)に

### 参加して

報告 笠井美世(準会員 A-0224)

1月9・10日に予定していた筋ヶ岳での積雪期研修山行は、大雪のため高速道路は全線通行止めになり登山口までたどり着けないだろうという判断で延期になった。安東さんの提案で三俣山ダイレクトルンゼに行くことになった。研修山行参加の3人に60代の女性が加わった。私は三俣山北峰に到達するこのバリエーションルートに行ってみたかったのでワクワクしながら準備をした。前日は、飯田高原のカナディアンビレッジに泊まった。密にならないように気を配りながら、これからの山行やロープワーク、装備などについて話し合うことができた。

1月10日8時長者原を出発。鉱山道路は寸断され夏の水害の爪痕は想像をはるかに超えていた。土石流跡から林道を通り最後の砂防ダムを目指した。途中危険箇所はスリングでフックスロープを張った。三俣山の谷を目前にアイゼン、登攀具を装着した。見上げると真っ白な北峰が頭をもたげ谷を覗き込んでいるように見えた。急峻な谷をラッセルしながら登った。時には1m位はまり込み身動きできなくなった。「ワカンで歩く要領で円を描くように」と安東さんのアドバイスで歩いた。凍った滝が現れ、ここで2人がロープでつながりアイスクライミングとなった。途中アイスクリュウで支点を取り安東さんがリードで、私がセカンドで登った。氷が固く私の打つアイスバイルもアイゼンの蹴り込みも歯が立たなかった。その後は岩とアイスのミックス。ピッケルを効か

せながらアイゼンの歯をどこに置くか考えながらの登攀は面白かった。鞍部で大鍋を見下ろし大休止。そして残った力を振り絞りながら北峰に到着した。下山は尾根を下る。雪のトンネルになった樹林帯を進んだ。急なガレ場と大きな岩を懸垂下降して登山道に出た。そこからひたすら雪道を下り、指山を経由して17時長者原に到着した。

研修山行や青年部の仲間と岩場をアイゼンで登る練習をしてきたことが実践できた。まだまだ安東さん頼みの場面が多いが、切磋琢磨できる仲間がいることが何よりの感謝だと思う。前日安東さんに「笠井さんはもう一人の女性と組むか」と言われ、自分がいつも誰かに頼っていることも痛感した。練習を重ねリードを任される人になりたいと思った。

<参加者>

安東、矢上、笠井、会員外1名



懸垂下降中の笠井



核心部の2ピッチ目



リードの矢上



牧ノ戸峠駐車場



下山途中、指山のメンバー

**個人山行(てるてる会)**  
**雪の久住 御池の旅**  
**宮原照昭 (15463)**

先日テレビで北アルプス雪の景色を見て、3年前冬久住の南登山口から登り御池に行き氷上で遊んだこと思い出し、急にいつものメンバーに連絡して5名で牧ノ戸峠から御池に行く計画を作成した。

当日1月10日(日)3日前から運もよく発達する低気圧が木曜日から寒波が来るらしいので、日曜日朝早く起き準備して6時50分過ぎ大分を出発し湯平から雪が多くなり、湯布院から水分峠通るが日陰の所が氷っているので慎重に進むと、飯田高原から見る山並みは雪に覆われている。牧ノ戸峠駐車場には車で一杯。

気温を見ると-6度で寒い。又いつもの県外ナンバーの多さ、車を端っこ止め準備(アイゼン)をして朝9時出発する。

最初のコンクリート道に雪が積もり普通の歩きと違いすべり止めで歩きやすい。沓掛山からの石と梯子を下りながら進むと、そして雪のトンネル抜けると扇ヶ鼻分岐休憩して長者原を見るとダイヤモンドダストが舞う雪一色。多数の人も多く登ってきている。天気も太陽が出ると額に汗かき11時20分頃避難小屋に着く。去年トイレと新しい小屋が出来たと聞いて見ると、立派な建物である。しかしトイレは冬に使われないらしい。ここで昼食を済ませるが、昼の時間帯で人が多く密室なので入口を開け昼食を早く済ませる。

そして登り始めて久住別れからは天気もだんだん曇りと風が出てきて体が寒くなり早く中岳方面に行き御池に着く。



御池氷上に立つ



御池を見ると池には、多数の人が氷上に入り写真を撮って遊んでいる。しかし池の端っただけ氷が解けて穴があり慎重に私達のメンバーも入り、子供みたいにはしゃいで氷上で写真を撮り遊び楽しむ。もう少し居たいが怪しい雲が近くに見えだし急いで下山開始。メンバーは少し早く降りるが久しぶりの(アイゼン)装備で疲れながら降りるが皆と遅さみ。下からは、まだまだ登ってきており、法華院温泉でも泊まるのでないか。降りていると太陽が見えると汗ばむしかし曇ると寒くなりながら牧ノ戸峠駐車場に向けて降りていく。牧ノ戸峠駐車場には2時過ぎに着く。

今回の雪山登山は3年ぶりで、今回の冬山登山の前に近場で(アイゼン)をつけ練習して登ったが、歩き方など難しい面があるので冬山登山を毎年何回か行かないと反省している。



牧ノ戸峠登山口

それから余談ですが、この日朝早く御池で穴の開いた所で男性が落ち、直ぐ上がり下山した話を聞いて御池の中で歩いた事が思い出し気を付けなければならないと思う。

<参加者>

宮原照昭(リーダー)、丹生浩司、若月美智子、久知良美登里、平原健史

個人山行 (てるてる会)

尻付山・ハジカミ山・

御許山

報告 平原健史 (16718)

1月30日、今年2度目の寒波のためアイゼンを用意して午前7時に出発。先ずは尻付山・ハジカミ山を目指します。車の前方には、これも今年2度目の満月の残影が夜明け前の空に幻想的に浮かんでいます。

午前8時半、西狩場からの登山口に到着。今は誰も住んでいないであろう部落のはずれの神社跡に車を停めて登山開始です。



登山口神社の鳥居

幸いに積雪・凍結はなく、しばらく苔や杉の落葉に覆われる舗装道を歩きます。周囲は古色蒼然として、道の両側のあちらこちらに何の跡なのか苔むした石垣が残り、かつてここで人々が暮らしていたのだなあという思いがわき起ってきます。

舗装道が途切れテープを目印に登っていくと二本松の分岐に到着。右へ行くと尻付山、左はハジカミ山です。道端にはお地藏様が鎮座し、手を合わせてから、まず尻付山へ向かいます。傾斜はさほど急だとは感じられず順調に登っていけます。小休止を挟んで程なく山頂へ。



尻付山山頂

かなりの広さがありますが、見晴らしはそれほどでもなく、すぐに下山、ハジカミ山を目指します。

二本松の分岐から登り返しますが、こちらも大して苦勞もせず山頂に到着。

山頂付近は狭くて暗いのですが、少し進むと展望が開けています。眼下には中山仙境が望まれ、目を転じると右から両子山、文殊山、千灯岳、鷲巢岳が並び立ち、いずれも周囲からくっきりと独立して山の姿かたち誠に良く、成程大分百山に選ばれただけのことはあるなと思ったことでした。

ハジカミ山を下ると11時過ぎ。少し早いですがここで昼食。リーダーの用意してくれた鰯鰯をおいしくいただき、この日三座目の御許山へ向かいます。

御許山へは正覚寺の登山口から登ります。登山口には車が5台停まり、また、下山したご婦人方が話をしていましたが、全く普通の服装でちょっと拍子抜けです。

普通の格好でも登れるくらいなので、所々にロープはあるものの、道は険しくはなく、しばらくすると雲ヶ岳との分岐に至ります・右へ行けば雲ヶ岳、真っ直ぐ行けば御許山なのですが、雲ヶ岳への方向を示す矢印が直進を示しているようにも見え、それだけを見ていると(周囲には他の標識もあるけれども)右が御許山とってしまうかもしれない、よくよく注意を払わねばと感じました。

そうこうすると西屋敷からの林道に遭遇、左に曲がって大元神社を目指しますが、この合流点は林道が舗装されているのに対し、登ってきた道はそうではなく、下山時には舗装された道なりに進み、間違ってしまうこともあるかもしれない、先ほどの分岐同様、気をつけなければと思ったことでした。林道を歩くこと暫くにして大元神社に到着。

古木に囲まれた境内はひっそりと静まり返り、訪れた参拝者や登山者を優しく迎えてくれます。参拝の後、いつかまたやってこようと思いつつ神社を後にしました。



大元神社の御神木

今回は1日に始めて3つの山を登るという経験をしました。天気も良く、大変楽しい1日でした。リーダー、ありがとうございました。

<参加者>

宮原(R)、平原(健)

### 個人山行

**経読岳(992.2m)**

**平原瑞枝(会友 226)**

山の名前から険しい修行の場であろうと想像がつく。

ならば、天気にも味方して欲しいと思うものの、家を出る頃から雲行きは怪しく、小屋ノ原登山口に着いた時にはあいにくの小雨模様だった。

2月13日朝8時30分各々雨用の身支度を整え出発、竹林の中の林道を進む。

幸いなことに、しばらくすると雨が止み、レインの必要がなくなった。

しばらく進むと道は二手に分かれているが、ここは古峠を目指して進む。ヒノキ林、自然林と植林が変化しながら徐々に高度を上げる。

大きな岩も目立ってくる中、踏み跡は落葉や小枝で見つけにくく、ピンクのリボンを目印に慎重に進む。少々疲れてきたところで、自然の力で曲げられた大きな杉のアーチに出会えた。

見事なアーチに皆感嘆し、当然記念撮影となった。



風で曲がった木

気分も新たに歩を進める。古峠に着くまでの杉林の中は少々分かりにくく迷いそうになった箇所もあったが、何度も皆で確かめながら行った。古峠で道は分岐。左の山側へと入り経読岳を目指す。しばらく進むと円錐状の山が見えてきた。あれが小屋ヶ岳、今回登ることはなかったが、とても素敵な山容が今でも嶮に残っている。



経読岳山頂

古峠からは九州自然歩道というだけあって休憩用のベンチが設置されていたり、歩きやすいステップがあったりと快適な山歩きを楽しむことができた。時に大変な所もあり、鎖を渡した大岩では一人一人慎重に声を掛け合いながら進んだ。

ここは県境とあって、大分県ではなく福岡県が設置した立看板(標識)や丁寧な説明と地図がの

った案内板がいくつもあったのが快適な登山の一因なのかなと思う。

山頂では記念撮影と昼食。その後の下山は往路とは別のルート、山頂から小屋ヶ岳を前方に見ながら西へ向かい小屋ヶ岳を回り込んで下ることにした。

このルートは、道らしき道はないものの、迷いやすい箇所には小さなケルンが積まれていて、苦戦しながら時間はかかったものの、とても有り難い道標だった。

今回の登山、特に下山ルートは古の修行の場に相応しい厳しい張りつめた空気を感じることができた。思うに、自分も修行とまではいかないまでも、山行を通じてそれに近い経験を積んでいるのではないだろうか。今後も山行を重ね、少しでも修行していければと思う。

<参加者>

- 宮原 (R)、櫻井、若月、飛高、平原 (健)、平原 (瑞)

**個人山行 (大分百山達成二回目)**

**木ノ子岳(630.3m)**

**宮原照昭 (15463)**

2016年11月26日に大分百山の達成し宴をした。その年の12月10日の忘年会登山で釈迦ヶ岳・御前岳で101・102山から数えて行き。その次の達成者の為に連れて行くが、登山口も登山道も覚えていない。それで支部長達から連れて行ってもらおう。それで2017年末まで164山になるが、次の年から意識を改めて自分が計画書を作り前の日まで予習し一人で登山する。そして帰ってから復習する。2018年からは、秋の11月に最後の難関、桑原山をグループ11名で登頂し、今年2月20日に大分百山達成二回目を木ノ子岳に決め計画を立て、まず近くの米神山を登り最後の木ノ子岳決めた。朝8時に佐田登山口に11名で集合して登山開始。左右に立ち並び京石を見ながら登って行くヒノキ林を見て鞍部に着く。それからロープ伝いに頂上に着く。



第二展望台

そこで写真を撮り、そして熊登山口に向けて下山開始。急斜面の下りはロープが張られ慎重に降りる。雨の日の時は米神山に登りたくない。登山口には10時30分過ぎに着き、次の木ノ子岳平原登山口に向けて峠越えを超えるが、道は悪く40分で登山口に着く。そのの広場で昼食して登山開始。林道を30分歩くと木ノ子岳登山口に着きそれからは急登でロープを頼りに40分で頂上に着く。



木ノ子岳山頂

そして平原登山口に降り30分で今夜の宿「守実温泉やすらぎの郷やまくに」着く。バンガロー2棟借りてコロナ対策を事務所方に説明して食事マスクをして宴会も短くして終る。そしてバンガローで熟睡する。

次の日、中摩殿山に行く予定だったが昨日宿で中津観光ビデオを見た京石・鷲石の岩場が有り皆が登っていないので行くことになり宿を9時30に出発し、中摩殿登山口手前の羽高地区を左に行



やすらぎの郷(やまくに)のバンガロー

くと登山口があり、道沿い止め林道を歩く30分歩くと急登が続く。京石と鷲石分岐を京石方面へ、しかしまだ急登を登って行くと大きな岩に着く。岩を巻きながら登るとやっと京石手前の鞍部に着く。



京石手前の鞍部

頂上まで岩を登り頂上は、2・3人しか上がれないが天気を良いので少数で写真を撮り直ぐに降りて鞍部で写真を撮り来た道を帰るが、急坂で途中から地図を見ながら安全な方法考えながら降りると林道に着き登りより早く降りる。13時過ぎに着く。

今回私の大分百山を2回目の木ノ子岳に照準に合わせて2年前から計画を立てやっとけじめをつけることが出来た。今後は、このメンバー11名で切羽琢磨して更なる飛躍して行きたい。

<参加者>

宮原照昭(リーダー)、櫻井依里、丹生浩司、若月美智子、神田美代子、久知良美登里、清水道枝、清水久美子、平原健史、平原瑞枝、飛高紀子

個人山行

牛頸山・天拝山 (福岡県)

宮原照昭 (15463)

1月24日(日)

今年も半月過ぎて、私が年男であり牛の付く山を探し福岡の筑紫野市に牛頸山があり、いつものメンバーに話をし五名が賛同し1月24日に出発することになった。

朝6時30分に出発し別府から大分道に乗り行くが雨と霧で視界が悪く日田まで続く。しかしそれから雨も上がり日差しも出てきて筑紫野ICを下り大野城市いこいの森キャンプ場に着く。そこで管理事務所に届け9時20分キャンプ場の下の牛頸山遊歩道入口から登り、うっそうとした道を歩くが登山道は、道が悪く急登で林道と山道を交代で歩きながらところどころ休憩所のベンチがありそして10時30分牛頸山山頂に着く。



牛頸山山頂

そのころ雨も上がり大野城市街地が見える。そして頂上で地元の人が「おみくじ」あり皆で引き、私は末吉を引く。そして縦走道の登山道は歩きやすく途中の鞍部の11時10分三市境界山((大野城市・筑紫野IC・筑紫野市)に着く。そして縦走路を歩くと11時30分黒金山に着く。

そして前黒金山に三角点ある所まで行き大野城市いこいの森キャンプ場の上に着き縦走路一周した約3時間位かった。

事務所にお礼を言う。そして車で昼食の場所を探し近くの公園でコンロを出しラーメンと一緒に食べたが時間があり近くの天拝山に登りに行くこ

とになり20分で着くが駐車場は一杯で第2駐車場に入れそこから山道の途中にはポイントごとに和歌が刻まれた石碑があり。



黒金山山頂



和歌の碑文

道沿いに10分位歩くと鳥居に着きそこから右横の橋を渡り、登山道を一周したら1時間位で頂上に着く。今日は天気が良く見晴らしを良く太宰府市内がよく見える。そして福岡空港から飛行機が飛び立っていた。そこから降り立つと天拝山社がありそこでお参りしそして階段を下ったら広場がありそこからポイントごとに和歌の石碑が降りるたびにありそれを見ながら駐車場に降りていく。

そこから駐車場を出て筑紫野ICに入り別府ICから降りて大分に帰ってきた。

今回は、新型コロナウイルス対策で緊急事態宣言が出されている中で福岡県に行くか迷ったが、徹底して、マスクを着け、公園でラーメンを食べ、途中店に寄らないで登ってきた。



鳥居

り立っている。その壁に向かってこれから登るのだ。

ササが広く刈られた道を行くと次第に急な道になる。これから万年山の急斜面に取り付いていくのだ。歩幅が広い木の階段がところどころにある急登の登山道をひたすら登り。スギ林を抜けてミヤマキリシマが見えてくると傾斜が緩くなり、そこはもう広い山頂の台地の上だ。急登のあとの小休止をして、クマザサの中を進み、山頂へ。

この日はお天気も良く、山頂は周囲を遮るものがなく、九重連山や由布岳、月例で行く予定の亀石山や吉武山など、360度の大大パノラマのご褒美が待っていました。



参加者



万年山山頂

<参加者>

宮原照昭(リーダー)・清水道枝・清水久美子・平原健史・平原瑞枝

個人山行(こぎこぎ倶楽部)

万年山(1,139.9m)

清水久美子(会友178)

1月24日(日)

1月のこぎこぎ倶楽部の山行は黒猪鹿から登る万年山。今回も地形を地図から見て推測し、歩く山行。特に下山予定のコースは歩いたことがなかったのでワクワク。午前8時に九重町役場前に集合して、ここで車の数を絞って黒猪鹿へ移動。林道に入って途中で駐車して8:50過ぎ、そこからスタートはからはひたすら林道を歩き。道の日陰にはうっすらと雪が残っている。50分余り歩くと吉武台牧場倉庫の駐車場につながる林道との四辻についた。目の前に万年山の東端の壁がそそ

集合写真を撮って、時刻はまだ11時前だが、ここでランチタイム。めいめい広い草原に腰を下ろしてお弁当。昼食後、リーダーの飯田さんの案内で山頂の南の端にある展望の良い岩の上にみんな移動。左に九重連山から右の方の津江の連山まで、正面に遠く阿蘇の山並み、果てしなく広がる素晴らしい景色が満喫出来ました。



万年山台地を背景に

下りはおじかの台経由だ。登ってきた林道に下って少し行ったところから右に、カヤ野の中へ分け入ります。地図を頼りにしばらく行くと、985mの標高点に到着。振り返ると万年山が卓上台地なのが良く分かる。ここでも万年山の台地をバックに集合写真を撮ってさらに前進。背の高い猛烈なササヤブの中を分け進みます。

しばらく行き、ヤブが薄くなると細い尾根の下りとなる。岩場もあり足もとに気を付けながら下っていき、傾斜が緩くなると今度はまた見事なやぶ漕ぎコースで、背の高いササの道なき道をやぶ漕ぎしながら、やっとの思いで林道へ。荒れた林道でカヤも覆っているがうんと歩きやすい。次第に道がよくなり、やがて舗装道路となって駐車場の場所へ着きました。久々のやぶ漕ぎも何だか楽しかった。本日も充実した大変楽しい山行でした。

<参加者>

飯田(勝) 宮原、若月、大渡、神田、丹生、久知良、平原(健)、安部、柳瀬、清水(道)、清水(久)、平原(瑞)、飛高、諸田、甲斐(英)

**個人山行 (こぎこぎ倶楽部)**  
 ~山里の魅力~  
**妙見山~谷山~石山**  
**木下恵子 (準会員 A-0299)**

2月23日(火)

「ようこそ、宇佐の里山へ!」と、皆さんを歓迎する気持ちで参加した縦走山行。8:00院内町香下ダム堰堤に20名が集合。快晴で気温もベスト。ゴール地点に車を数台移動させ、8:30妙見山登山口スタート。

案内標識や豎堀の看板が設置されている程よい登りを進むこと約30分で妙見峠(射場越し)に到着。ここは妙見山と谷山の鞍部になっており、立派な椋の木がそびえている。遠くの採石場の音を耳にしながら右に折れていくと謎の手洗石が出現。十字架のような切込みがあり、キリスト教の洗礼を受けるときの聖水岩ではないかと言われているとのこと。

約30分で妙見山(444m)に到着。妙見城遺構や妙見山史誌の看板を興味深く読んだ。防戦の拠点としたかなり高い矢倉もあったとのこと。この山城で繰り広げられた戦いやキリシタンの歴

史に思いを巡らせた。落ち葉の下から小さな小さな蕾をのぞかせていたフデリンドウに心が癒された。

来た道を妙見峠の方に引き返し、よく整備された気持ちの良い登りを行くこと約40分で谷山(434m)に到着。ここまでは比較的楽勝で会話も弾む。

ところが、これからが一気の急下降。ロープや木々に頼りながら慎重に下る。鞍部にたどり着くとヤレヤレ、ホッ。猪の又夕場にはカエルの卵がウジャウジャと。白いキノコがピッシリ生えた木も。こんな予期せぬ出会いも楽しみの一つである。尾根を進んでいくと、宇佐平野方面の展望が抜群の蕾所に出た。しばし景観を楽しむ。

さらに登っていくと大石の急登が現れた。名前の通りの石山だと納得しながらロープを頼りによじ登って行くと、ようやく木々の間から青空が見えてきた。頂上だと期待しながら登り、谷山から1時間20分で石山(539.5m)に到着。樹林に囲まれて展望はないが、心地よい木漏れ日の中で昼食を楽しんだ。



石山山頂

石山からの下りもかなりの急坂である。落ち葉がフワフワでこけても痛くなさそうだが慎重に。ここでもロープがありがたい。高山方面、香下ダム方面の展望がよい所を通り過ぎると、鬼落山がドーンと目の前に。確かに鬼が落ちそうな急登である。石山山頂から50分で横山峠についたが14時10分になっており、時間がないので鬼落山はパスとなった。10分ほどで車の所までたどり着いた。

ダム堰堤横の広場での解散式では後方支援を請け負ってくれた安部さんの歴史メッセージを聞き、山行の結びとした。今回歩いたルートから、先ほど見えた高山まで足を延ばす宇佐7山縦走路というのが有る。直登、直下の連続でかなり鍛えられるとのこと。里山の魅力は尽きない。

<参加者>

飯田(勝)、鹿島、中野(稔)、石神、宮原、若月、神田、大渡、丹生、久知良、平原(健)、安部、柳瀬、清水(道)、清水(久)、雪野、賀来、平原(瑞)、中野(梨)、諸田

**個人山行**

**華岳 (592.7m)**

**・猪群山 (458.2m)**

**平原健史 (16718)**

2月27日、百山制覇を目指し華岳、猪群山に挑戦です。

まずは華岳。国道10号からふるさと林道豊後高田山香線に入り登山口を探しますが、最初はオレンジ色の標識を見落としてしまい、ゆっくり引き返して登山口を発見、登山開始です。

軽トラックでも上れないのではという位の急傾斜の舗装道を歩くこと数分、道は左に曲がって未舗装となり、杉林の中テープを目印に進んでいきます。歩くこと20数分で455mのピークに到着。ここから岩混じりの稜線を進み、山頂直下の小ピークへ。ここで一旦下ってから最後の急坂を登って山頂に到着です。



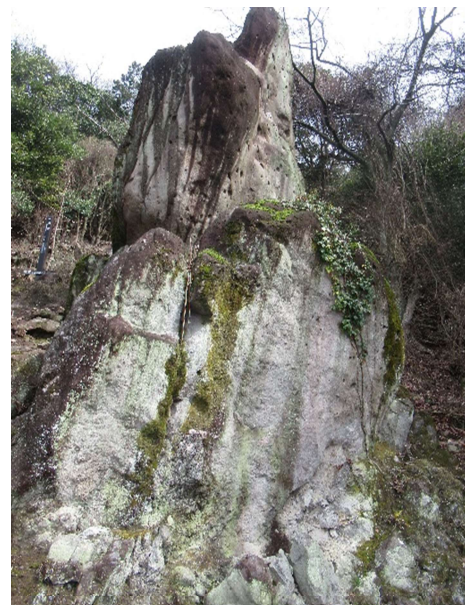
華岳山頂

山頂は木々に囲まれて展望は効きませんが、木立の間から北部中核工業団地が望まれました。下山は往路をたどりますが、先程の山頂直下の小ピークが曲者。道が2つに分岐していますが、ここを間違わないことが肝要です。ほぼコースタイム通りに下山。次を目指しますが、全体に華岳は言葉から受ける華やかなイメージとは異なり、季節のせいもあってか花一つ見られず、わずかに車を停めた場所近くにスミレと菜の花を見つけたのみでした。

さて、次は猪群山です。ふるさと林道豊後高田山香線から北部中核工業団地の中を通り、グリーンロード、赤根真玉線をたどって常磐登山口に到着します。駐車場とトイレがさらには地元の「いのむれ会」によって三つ叉の群落が整備され、三つ叉は今まさに見頃を迎えようとしています。また、豊後高田市観光協会によって登山ルート(常磐コース)の絵地図案内板も立てられ、先程の華岳とは随分様子が違ってきます。

華岳はひっそりと手を加えることなくそのままそこにあるという感じですが、ここ猪群山は言わば至れり尽くせり、国東半島峯道ロングトレイルコースの1つとして、コース途中の見所の案内を含む案内標識が数多く設置され、登山道もよく整備され、さらに案内標識には「だった」「よこおーえー」「こちどり」といった方言が書き加えられていて登山者を憩わせ、そして励ましてくれます。

猪群山の見所は大きく3つ。立石、いっぴく望、ストーンサークルです。



立石



まずは立石。カ尽石の別名もあり、ここまでの登山で力が尽きた所に丁度この石が立っていたのかなあと勝手に想像しながら石を撮影します。石の周囲には桜が植えられていましたが、まだ芽は膨らんでいませんでした。次にいっぴく望。一服、一幅、一腹と同音異義語がありますが、ここでは一服、一休みして周囲を望むということでしょう。南側の眺めがよいと新大分百山にありましたが、確かに由布、鶴見が遙かに見渡せます。

最後はストーンサークルですが、その前に昼食です。今日はここまで順調に行程が進み、山頂到着が正午過ぎ、リーダー持参の食パンをおいしくいただきます。

そしてストーンサークル。陰陽石の門を通り抜けると右側にしめ縄が巡らされた神体石が鎮座し、平坦な山頂部分には陰陽石、神体石を含め巨石が円形状に列をなしています。人の手で並べたのか否かはさておき、巨石の山猪群山に相応しい景観で、海の彼方に見える姫島の姿など周囲の展望と合わせ、登ってきた甲斐があったと思ったことでした。

この日は天気にも恵まれ楽しい1日を過ごすことができました。リーダーありがとうございました。



猪群山山頂

<参加者>

宮原 (R)、若月、平原 (健)、平原 (瑞)

**個人山行 (こぎこぎ倶楽部)**  
**マンサクの咲く佐渡窪へ**  
**賀来和子 (会友 183)**

3/13 くもり

今回のこぎこぎ倶楽部は立中山マンサク観賞会です。マンサクについて調べたら語源は明らかではないが、早春の山に咲くことから「まず咲く」「真っ先」が変化した説、多数の花が豊作に通じることから「万年豊作」に由来するなどの説があるとのことでした。眺めているだけで心晴れやかになる可憐な花。いいですね。

朝8:00に久住・大分川の一番水下の駐車場に14名が参加しての出発になりました。千本桜の中を通り登山道入り口に8:45。もうこのあたりからちらほらとマンサクを見ることが出来ました。昨年は探すのが大変だったので今年は期待してわくわくします。

鍋割坂を登りつくとあちこちの木立の中に黄色の花、花、花・・・このあたりはちょうど見頃でした。冬枯れた山の斜面に控えめにマンサクの花だけがひっそりと、静かに咲いています。

坊ガツルへの道をそれて、佐渡窪を横切ってその一番奥から林の中の急斜面を登って行きます。ミヤマキリシマの中にアセビが茂りミヤマキリシマの生育に影響があるそうで、カビが生えて枯れている枝もありました。

やがて傾斜が緩くなり、林の中を曲がりくねっていくと鉢窪の台地につきました。大船山との分岐を過ぎて、茂みの中を漕ぎ分けて進み、長い登りが終わると立中山の頂上に11:39に着きました。気温が3.8℃と寒かったので、集合写真をとると急いで下山開始。昨年の頂上付近での山火事の跡を見ました。無残に焼け焦げたままのミヤマキリシマがあちこちに見られます。どうしてあんな場所で火を使ったのかと思いながら下ります。ぬかるんだ黒土の急斜面の下りを、小枝など掴みながら全員が無事に下ることが出来ました。12:10 鉾立峠まで下るとどうやら風もしおげるので、道わきに腰を下ろして昼食をとりました。

佐渡窪に向かうところでは、山からの土砂で前は尾瀬の湿原のようだった風景が今は木道も所々しか姿がなく土で覆われています。昨年とは様変わりしていてびっくりです。でも周りの山は黄色い花が咲いていてここでも集合写真を撮りました。このあたりもいたるところでマンサクの花が咲いていました。見応え充分でとても満足しました。

14:57 集合場所に到着、寒かったので温泉の話などもあり解散となりました。朝集合場所に向かう途中の竹田で虹を見られました。さらに山中でフキノトウを摘むことも出来ました。次の日の亀石山のオニギリの具にしました。飯田さん、皆に声をかけて頂きどうもありがとうございました。心に残るマンサクの花になりました。



佐渡窪のマンサクをバックに！

<参加者>

飯田(勝)、鹿島、櫻井、宮原、大渡、神田、尾家、久知良、平原(健)、木下、柳瀬、清水道、賀来、飯田(ひ)

**個人山行 (てるてる会)**  
**俵山 (1,095.3m) 熊本県**  
**櫻井依里 (15463)**

「てるてる会」が発足し2年目を迎え、本年4月より九州百名山完登を目標に活動を始めた。その一環で今回は俵山へ登る。コースは標高700mの俵山峠から1時間10分の行程である。灌木



と風力発電の風車群を右に見て登る初級コースである。

俵山は米俵をいくつも積み重ねたような山容から、その名前がついたといわれている。

俵山峠は阿蘇外輪山の主要峠の一つで、かつては阿蘇高森町と熊本市を結び、七曲峠とも呼ばれた交通の難所でした。現在は園地として整備され、阿蘇山方面の展望を楽しむことができる。

メンバーはリーダー宮原、若月、櫻井の3名で3月27日(土)6時30分大分を出発、9時30分登山開始、10時に一般コースと迂回路コースの分岐に差し掛かる私達は一般コースを選択20分で地蔵峠と俵山の分岐に出た。途中、野焼きを見る事が出来、暫く眺め春本番を感じる。分岐から10分で山頂に着き景色を眺め一言「久住山は雄大、阿蘇山は壮大」。やっぱり熊本市内から近くハイキングコースと言うこともあり登山者は年配者が多い。歳のせいか私もこの緩い登山が好きになってきた。



俵山山頂にて

10時50分下山開始、11時40分に登山口に到着し昼食、今回のメニューは宮原さんが用意してくれた「中村屋」のスペシャルカレーであるブランドだけで美味しく感じる、宮原さん「何時もすみません頂きますで」完食。

帰りは開通した立野の大橋を見て、阿蘇道の駅に隣接する温泉に入り帰路に着く

<参加者>

宮原照昭、若月美智子、櫻井依里

## 支部からの報告(会務報告)

### 支部会議報告

第8回役員会 1月28日(木)大分市Cホール

1. 令和2年度事業計報告(本部提出)
2. 古道調査 ほか

第9回役員会 2月25日(木)大分市Cホール

1. 令和3年度特別補助事業(本部提出)
2. 古道調査 ほか

第10回役員会 3月24日(水)大分市Cホール

1. 定期総会各種議案審議
2. 当面の行事計画等

会計監査 ; 4月6日(火)大分市西部公民館

## お知らせコーナー

### 支部のルームについて開催状況

2月5日(金)大分市西部公民館 出席者 8名  
 3月5日(金)大分市西部公民館 出席者 6名  
 4月2日(金)大分市西部公民館 出席者 6名

### 支部ルーム開催予定

5月7日(金)大分市西部公民館 18:00~  
 6月4日(金)大分市西部公民館 18:00~  
 7月2日(金)大分市西部公民館 18:00~  
 8月6日(金)大分市西部公民館 18:00~

## 新入支部会員紹介 (令和2年7月以降)

### 会員

佐藤 彰 会員番号 16709) 3年 2月 入会  
 平原健史 会員番号 16718) 3年 3月 入会

### 会友

吉田三華(会員番号 251) 3年 4月 入会

## 月例山行のご案内

### 5月例山行: 涌蓋山(1,499.5m)

#### (県境稜線縦走)

日 時...5月16日(日)  
 出 発...5月16日(日)午前6時30分発  
 集合場所...大分駅南口(上野の森口)

参加申し込み期限...5月10日(月)まで  
 担当リーダー...宮原照昭

参加申し込み...TEL 097-537-1389  
 (携帯) 090-7384-3111

Email [teru-miya240619@docomo.ne.jp](mailto:teru-miya240619@docomo.ne.jp)

※地図 1/25,000 湯坪

### 6月例山行: 獺師山 南面より(1,423.9m)

#### (県境稜線縦走)

日 時...6月13日(日)  
 出 発...6月13日(日)午前6時30分発

集合場所...大分駅南口(上野の森口)  
 参加申し込み期限...6月7日(月)まで  
 担当リーダー...笠井美世

参加申し込み...TEL 097-556-7108  
 (携帯) 090-1970-5068

Email [mmykasai@nifty.com](mailto:mmykasai@nifty.com)

※地図 1/25,000 湯坪

### 7月例山行: 群山(1,043.2m)

#### )・越敷岳(1,024.0m)

#### (県境稜線縦走)

日 時...7月11日(日)  
 出 発...7月11日(日)午前6時30分発

集合場所...大分駅南口(上野の森口)  
 参加申し込み期限...7月5日(月)まで  
 担当リーダー...中野 稔

参加申し込み...TEL 097-543-3903  
 (携帯) 090-2712-5225

Email [zermatt1111nm@gmail.com](mailto:zermatt1111nm@gmail.com)

※地図 1/25,000 豊後柏原

### スズタケ枯死とシカの食害調査

日時...6月5日(土) ← (中止)

場所...本谷山西側の稜線の定点観測地点

集合...午前7時 「道の駅・原尻の滝」

※コロナ過で6月調査は中止。10月調査は状況次第。

### 登山届け提出先変更のお知らせ

令和3年定期総会において提出先が変更になりました。  
 安東桂三支部長より、鹿島正隆副支部長です。  
 遭難対策部は、2人体制で、鹿島副支部長、矢上さん  
 です。<山行の前に必ず提出してください。>

**第2回支部役員会の開催のご案内**

第2回 支部役員会を下記の通り開催しますの  
で役員の方はご参集下さい。

日 時…令和3年6月23日(木) 18時30分より  
場 所…大分市西部公民館

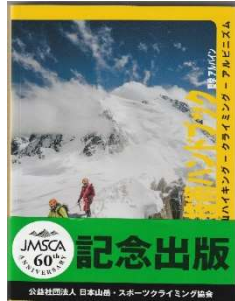
**購入のお奨め**

『総合登山技術ハンドブック 夏期  
アルパイン』

日本山岳・スポーツクラミング協会  
の創立60周年記念事業として、国  
際山岳連盟(UJAA)ベツル財団著  
作の「UIAA 総合登山技術ハンドブック夏季アルパイン」の日  
本語版が発行されました。

A5 サイズ、376 頁、全頁カラー、頒価 2200 円(税込み)送料  
無料となっています。

ぜひ、購入を。入手希望の方は、日本山岳・スポーツクライ  
ミング協会の HP にアクセスして頂き、ホーム画面右側のパナ  
ーより詳細を確認下さい。



「背水の陣」で望む覚悟であると述べられた。安東新  
支部長から、各役員も選ばれ令和3年度定期総会は  
新たなスタッフでスタートの年となった。

・本部の創立120周年記念事業として、今年度より  
「全国山岳古道調査」が始まる。これは全国に残る山  
岳古道のうちから120の道を中心に選んで、文化  
的、歴史的、地理的な側面から踏査・調査・記録・保  
存するものである。将来的には調査データを公開し、  
結果を地域社会に役立ててもらえるよう作成するも  
のである。

・4月の月例山行に参加した。涌蓋山麓の林道で「一  
人静」の花を見つけた。「ヒトリシズカ」の花言葉に  
は主に2つあるそうで、一つは「愛に答えて」、もう  
一つは「隠された美」である。

これは源義経の妾であった静御前に由来するとか？  
普段一人で歩くと、足元の植物状況はなにも目に入ら  
ないが仲間と歩くといろんな植物等に出くわす、可憐  
な花にいい機会を頂いたので、これからは足元にも気  
を配り興味をもって歩くことにした。(T.A)

**後記**

令和3年度定期総会が別府市公会堂大ホールで開  
催された。この定期総会は通常であれば大分市(コン  
パルホール)で開催していたが、今回は密集を避け  
るため広い会場を選んだ。出席会員には入場時、検  
温、マスク必着、手の消毒で万全の対策を講じた。

議事進行に当っては、会員の丹生会員が選出されス  
ムーズな司会進行で無事議事が終了した。最後に本年  
は、役員改選の年にあたり支部長以下三役が勇退し、  
加藤支部長から安東新支部長が推薦され会場からは拍  
手で承認された。壇上に上がりあいさつをされた。東  
九州支部の現状は会員の高齢化と若手会員の減少に伴  
い組織力も衰退傾向である。

**公益社団法人日本山岳会東九州支部  
東九州支部報 第93号**

2021年(令和3年)4月25日発行

発行者 安東 桂三

編集者 阿南 寿範

印刷所 佐伯印刷株式会社

発行所 事務局

〒870-1113 大分市中判田15-55 阿南方

TEL・FAX 097-597-7120

E-mail beca5844@oct-net.ne.jp

**1968年創業の山溪が  
あなたのアウトドアライフをサポートします。**

山道具の  
**110番**  
開設中!

靴が合っていないのか、登山に行く度足が痛くなる…。  
リュックサックが肩にくい込む。テントが雨漏りする。  
道具の使い方がわからない…等々、  
弊社ご購入品にかかわらずご相談に応じます。

# 山溪

西日本最大級の  
品揃え!  
since 1968

登山・キャンプ専門店

大分市生石1-3-1

GO ミ ナ サンサンサン

**TEL 537-3333**  
**FAX 537-3388**

●西大分「交番」前高輪団地入り口  
●JR西大分駅より歩いて6分  
●10時～19時30分 ●火曜定休日